

心の窓



校訓：かしこく やさしく あかるく つよく

令和3年9月24日（金）

南関町立南関第四小学校 学校だより

No.21

文責：松永 尚子

いよいよ明日は運動会です。

9月21日（火）には、総練習を行いました。いよいよ明日が運動会です。子どもたちは、「みんなで心をついに協力し、勝っても負けても笑顔になる運動会」を目指して、一生懸命練習に取り組みました。いよいよ明日です。心からの応援をよろしくお願ひいたします。



白団応援団長星先理一
くんを中心に、大きな
声で応援します。



赤団応援団長島田裕矢
くんを中心に、いつも
笑顔で応援します。



一・二・三年生の花
笠音頭の様子です。
て頑張り腰を落とすし



三・四年生のリレーで
して、工夫しています。
か

4・5・6年生のよさこいソーランは、当日のお楽しみです！手作りの素敵な法被を着て、最高の演技をお見せします！！

高向先生、お疲れ様でした。

9月6日（月）から2週間の予定で四小において教育実習を行っておられた、高向先生ですが、16日（木）に研究授業をされて、17日（金）で実習を終了されました。研究授業では、国語「やまなし」（宮沢賢治）をされました。学習課題は「なぜ、賢治は『やまなし』という題名をつけたのだろう」でした。この課題は、「やまなし」という作品の読み取りと賢治の生き方についての学びが必要になります。授業では、まず、「5月」と「12月」の場面の比較をして、「かわせみ」と「やまなし」がどのようなイメージか話し合いました。そして、6年生の子どもたちは、「やまなしはやさしい存在で、それは、賢治と同じだ」など、賢治の生き方と「やまなし」を関連付けていました。最後に、みんなで『やまなし』を音読して授業は終わりました。

高向先生にとって、初めての教育実習でしたが、「充実した2週間でした。」と話されていました。四小の卒業生としての誇りをもって、立派な先生になってほしいと思っています。



宮沢賢治の作品から…。

6年生が国語で学習している「やまなし」は宮沢賢治の作品ですが、この授業のあと、賢治の詩「雨にも負けず」を再度読み直してみました。「雨にも負けず 風にも負けず 雪にも夏の暑さにも負けぬ…（中略）東に病気の子供あれば 行って看病してやり 西に疲れた母あれば 行ってその稲の束を背負い 南に死にそうな人あれば 行って怖がらなくても良いと言ひ 北に喧嘩や訴訟があれば つまらないからやめろと言ひ 日照りのときは涙を流し 寒さの夏はオロオロ歩き 皆にデクノボーと呼ばれ褒められもせず苦にもされず そういう者に 私はなりたい」

賢治の生き方から、人の弱さや痛み、悲しみなどをわかり、思いやる心を育てていくことの大切さを考えさせられました。子どもたちとともに学び続けます。

